高等学校教育課程研究集会
参考資料

平成１８年８月　岐阜県教育委員会

国　　語

1　国語科の目標とねらい

Q　新学習指導要領では国語の目標はどのように示されているか。

国語科の目標は次のとおりである。

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

従前の目標と比較すると、「理解」と「表現」の順序が入れ替わり、表現力の育成を重視する姿勢がうかがえる。また、新しく「伝え合う力を高める」が加わり、言語による相互伝達や相互理解の能力を高めることが求められている。「伝え合う力」とは、互いの立場や考えを尊重しながら言語を通して適切に表現したり理解したりする力のことであり、急速に変化していくこれからの社会の中で、異なる考えや立場にある人々の間で理解し合い伝え合うことができるよう、是非とも身に付けさせなければならない力である。

また、平成 10 年 7 月に示された教育課程審議会の答申では、自ら学び自ら考えるなど、生徒の「生きる力」を育成するという改訂の趣旨を踏まえ、おおむね次の点が改善の基本方針として示されている。

- 言語の教育としての立場を一層重視する。
- 互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点を置く。
- 自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。
- 領域構成を「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び言語事項の３領域１事項とする。
- 指導の充実を図る観点から、言語活動例を示す。
- 各領域の指導時間数の目安を示す。

つまり、国語科の学習指導は、言葉による表現や理解の基本的な能力を身に付けさせ、その上にたって言葉で伝え合う力を高めること、そして、自ら学び、自ら調べ、考え、話し合い、問題を解決していく能力を育てていくことを目指しているのである。

2　国語科における改善の内容

Q　高等学校国語科における改善の要点は何か。

今回の改訂で重要なのは、ややもすれば知識中心・教師主導型の指導に偏りがちであった高等学校国語科の授業から、生徒が主体的に言語活動を行い言語能力を伸ばす学習を展開する授業へと指導を改善するところにある。

そこで、科目構成として、適切に表現する能力、伝え合う力を高めるために国語表現に関する２つの科目を設け、「国語表現Ⅰ」は選択必履修科目とした。

また、実践的な指導の充実を図ることを目的

に、各科目ごとに具体的な言語活動例が示された。内容を大別すると次のような言語活動である。

- 課題に応じて必要な情報を収集し、その成果を基に報告や発表などを行う言語活動
- 文章の理解を深め考えを広めるために、関連ある文章を読んだり読み比べる言語活動
- 題材を選んで考えをまとめ、発表、討論したり意見を書いたりする言語活動
- 文章を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりする言語活動
- 相手や目的に応じて話をしたり文章を書いたりする言語活動
- 表現上の特色や効果について考えたり話し合ったりする言語活動
- 古文や漢文の調子などを味わいながら音読、朗読、暗唱する言語活動

言語活動例には、情報の読みとりや文章の読み比べなど、問題解決学習に役立つような生徒の主体的な読みの学習が示されている。この内容を踏まえると、国語科においては、表現能力の育成を重視するとともに、読むことの指導内容の改善を図ることが重要視されなければならない。

つまり、書き手の立場に立って的確に読み取る能力を養い、その確かな読みの力を基盤として、読み取った内容について自分の考えをもち、話し合ったり意見を書いたりする言語活動学習の指導が期待されているのである。

3　授業改善の方向

> Q　高等学校国語科における授業改善の方向はどのようなものか。

国語科における改善の内容を踏まえ、次の3点に留意して授業改善を図る必要がある。

(1) 生徒の主体的な言語活動が行われる授業を展開する。

生徒が課題意識をもって「話す・聞く」、「書く」、「読む」活動を行うことで、生徒一人一人の言語能力が高まる授業を展開する。

そのためには、教師が解説して進める授業やいわゆる一問一答式の発問による授業展開など、生徒の主体的な言語活動が行われない授業になっていないか、日々の授業を再点検する必要がある。また、「読むこと」の学習指導においては、本文の内容理解を中心とするいわゆる内容中心主義になりがちなので、その授業でどのような言語能力を身に付けさせるのかを明確にした授業計画を立てなければならない。

(2) 言語の教育という観点から指導目標及び学習目標を設定する。

授業の中で生徒は「話す・聞く」、「書く」、「読む」活動をそれぞれ行っているが、国語科の授業では、言語の教育という観点でそれらの活動をとらえ、それぞれの領域の言語能力を伸長させることを目標とした意図的・計画的な指導を行わなければならない。

そのためには、1つの単元で指導の対象とする言語能力は原則的に1つに絞り指導目標を設定することが必要である。その上で、教師は、指導目標に照らして、その授業で生徒に身に付けさせる言語能力を明確にして授業に臨むことが重要である。

また、教師は、生徒が学習目標を確認し自分の言語能力について具体的な課題をもって学習できるように授業を展開させる必要がある。

(3) 評価規準、評価方法、評価場面を明確に設定する。

目標に照らして、学習者の実現状況を適切に評価し、指導に生かしていくための評価活動を充実させる。

また、教師による評価とは別に、学習活動と

して生徒に自己評価や相互評価をさせることで、課題意識をもって主体的に学習に取り組ませる態度を養うことができる。

4　指導と評価について

Q　目標に準拠した評価を行う意義は何か。

学習指導における評価について、平成 12 年 12 月の教育課程審議会答申に次のように示されている。

学習の評価は、教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにし、また、どのような点でつまずき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを明らかにしようとする、いわば教育改善の方法とも言うべきもの

この内容はこれまでの評価の位置づけと大きく変わるものではないが、今回の改訂であらためて強調されているのは、次の理由による。

(1) 教育課程改訂の方針の１つに「基礎・基本の確実な定着」があるが、それを実現させるために目標を明確に設定し、それに照らして生徒の実現状況を評価し、その評価に基づいて指導を充実させていくことが求められている。

(2) 学校が、家庭や地域社会から信頼されるとともに相互の信頼関係を築くために評価に関する説明責任を果たすことが重要である。

高等学校においては、従来から実施してきた目標に準拠した評価を充実させ、生徒の基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせ、「生きる力」を育むものとしていかなければならない。

Q　適切な評価はどのような手順で行えばよいか。

(1) 教科・科目の目標と観点別評価の設定

各学校において、自校の学力の実態を把握し、学習指導要領に示された教科・科目の目標及び内容と、各学校で設定されている教育目標を踏まえて目標を設定する。

そして、その目標の実現状況を評価するために目標に準拠した評価を行う。目標は多面的な側面をもち、どの側面からとらえるかによって評価は異なったものになるので、評価の観点を明確にして具体的な評価活動に入る必要がある。国語科の評価の観点は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の３領域の能力と「関心・意欲・態度」、「知識・理解」の５つの観点で構成する。

＜評価の観点と趣旨＞

観点	趣　　旨
関心意欲態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
話す聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。
書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。
読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
知識理解	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付ける。

(2) 指導と評価の年間計画の作成

・１つの単元で指導の対象とする領域は１領域に絞り、１年間を見通して単元構成に沿った指導領域の効果的な配分を行う。

・「国語総合」は、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の配当時間数の目安が示され、「話すこと・聞くこと」を主とする指導には１５単位時間程度、「書くこと」を主とする指導には３０単位時間程度を配当するものとしているので、それに基づいて計画を作成することにも留意しなければならない。

(3) 単元における目標と評価規準の設定

・各単元においては、１単元１領域の指導を基本とする。他の領域とも関連させた学習を展開することは大切であるが、指導の対象とする領域は１つに絞る。

・教科・科目の目標を踏まえて、単元の目標を設定する。単元の目標は、「指導の対象とする領域の力」と「関心・意欲・態度」と「知識・理解」の３観点について設定する。

・目標に即して、その実現状況を客観的に判断するための拠り所として評価規準を設定する。評価規準が示す学習状況は、目標に照らして「おおむね満足できると判断される」状況であり、具体的な生徒の姿として設定することが肝要である。

(4) 各時間の指導と評価

・各時間における評価は、生徒一人一人について、評価規準に基づいて行う。評価規準が示す状況を実現していれば「おおむね満足できると判断される」状況（B）であり、実現していなければ、「努力を要すると判断される」状況（C）であると評価する。

・さらに、「おおむね満足できると判断される」状況（B）について、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるとき、「十分満足できると判断される」状況（A）という評価になる。

・今回の教育課程改訂の方針である「基礎・基本の確実な定着を図る」ことを踏まえると、評価は、行ったらそれで終わりというものであってはならない。特に「努力を要すると判断される」状況（C）と評価した生徒に対する手だてが具体的に講じられなければならない。そのためには、「努力を要すると判断される」具体的な状況を予め想定し、授業の中で適切な助言が行えるよう準備しておく必要がある。

・各時間における評価は、学習目標に照らして、３つの観点（「指導の対象とする１つの領域の力」と「関心・意欲・態度」と「知識・理解」）のうち対象となる観点から行う。

・各時間の学習指導を行うときには、目標の実現状況を効果的に評価するための評価方法を検討し、各時間の学習指導の中で効果的に評価できる場面を具体的に設定しておかなければならない。

・観点別に実施した評価は、単元ごとに総括しておくことが望ましい。

(5) 評価から評定への総括方法の確立

・単元ごとに実施した評価を評定に総括する方法を確立しておかなければならない。

・従前の「知識・理解」に偏りがちであった評価から観点別の評価へと転換した以上、定期考査や小テストを中心とした評定ではなく、評価規準に基づいて授業で実施した評価を評定に総括する方法を定める必要がある。

・評価内容と評価方法については、生徒や保護者に明示できる状態を確立しておかなければならない。

Q　指導と評価の一体化とはどのような考え方か。

「指導と評価の一体化」について、平成 12 年 12 月に示された教育課程審議会答申には

指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指

導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である。

と述べられている。これは、目標に準拠した評価により基礎・基本の確実な定着を意図した指導においては、重要な点である。

生徒を数量的に評価したり相対的に評価するのとは違い、生徒一人一人に基礎・基本を確実に身に付けさせることができたかどうかを見とどけることが大切であり、評価により基礎・基本の定着度を測り、その結果に応じて授業の中で指導内容や方法を変更し、生徒一人一人に対して指導・助言を行ったり、次時以降の学習指導の在り方を検討することが求められるのである。

＜単元ごとの指導と評価の計画例　現代文＞

1　科目名　国語総合

2　単元名　評論『サイボーグとクローン人間』　（全３時間）

3　単元の概要

生徒の実態	新聞のコラム・社説レベルの文章を正確に読み取る力はあるが、自己の経験や考えに基づいて文章を能動的に読もうとする姿勢がまだ不足している。ものごとを論理的に考える訓練を重ねたい段階の生徒である。
単元の目標	ア　自己の経験や考えと比較しながら、筆者の主張をとらえ、自分の考えを深める。（関心・意欲・態度） イ　文章の論理的な展開に注意しながら、筆者の主張を的確に読み取る。（読む能力）〈国総 C 読むことア〉 ウ　語句の意味・用法などを正しく理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）

4　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読　む　能　力	知　識　・　理　解
①表現に即して筆者の主張を読み取ろうとしている。 ②自分の考えと筆者の主張を比較しながら、自分の考えを深めようとしている。	①文章の構成を把握し、筆者の主張を的確に読み取っている。 ②二項対立の論理展開に注意し、筆者の主張を読み取ることを通して、自分の考えを深めている。	①文中の語句の意味を正確に理解し、語彙を豊かにしている。

5　指導と評価の計画

時間	各時間の目標	主な学習活動	各時間の具体的評価規準	評価方法
1	**・サイボーグとクローン人間についての自分の考えを明らかにする。 ・自分の意見と筆者の主張とを比較検討する。**	**・サイボーグ、クローン人間それぞれの是非について意見をノートに書き、グループで意見交換する。 ・本文を読み、自分の考えと筆者の主張を比較して感じたことを発表する。**	**ア自分の考えと筆者の意見を比較しながら自分の考えを深めようとしている。【関②】 イ自己の考えと照らし合わせて読むことで、本文の理解を深めている。【読②】**	**・観察（発言） ・点検（ノートの記述）（ア） ・観察（机間指導・発表）（イ）**
2	・筆者のサイボーグやクローン人間についての思索の出発点を理解する。 ・筆者の意見を表現に即して読み取る。	・サイボーグやクローン人間に対する大衆の一般的な反応についての記述を読み取る。 ・クローン人間は非人間的ではなく、むしろサイボーグ化の方が大きな危険性をはらんでいるという筆者の主張を読み取る。	ア筆者が一般的な反応のどこに疑問を抱いたのかを理解している。【読①】 イ文中の難解な語句の意味を理解している。【知①】 ウ一般的な見方とは正反対ともいえる筆者の主張を読み取っている。【関①】【読①】	・観察（机間指導・発表）（ア） ・観察（発表）（イ） ・観察（机間指導・発表）（ウ）
3	・サイボーグが肯定されやすい理由を理解する。 ・文明の変化の要因について、筆者の考えを理解する。 ・筆者の主張に対する自己の考えをまとめる。	・サイボーグ肯定の背後にある思想を読み取る。 ・文明の変化が起こる要因についての筆者の主張を読み取る。 ・筆者の主張に対する賛否を明らかにして、自分の考えをまとめる。	ア近代の脳中心の人間観と、個人の福祉を絶対視する考え方が、サイボーグ肯定の背後にあることを理解している。【読①】 イ「安全な良識」が文明を覆すという考え方を理解している。【読①】 ウ本文を正確に読み取り、自分の考えを深めている。【読②】	・観察（机間指導、発表）（ア） ・観察（机間指導、発表）（イ） ・観察（意見文）（ウ）

6　学習指導案

本時の位置	1時間目（全3時間）
本時の学習目標	ア　サイボーグとクローン人間についての自分の考えを明確にもつ。（関心・意欲・態度） イ　自分の考えと筆者の主張を比較しながら、筆者の考えをとらえる。（読む能力）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の学習目標を確認する。 □サイボーグとクローン人間の定義を確認する。	①グループでの意見交換を通して自分の考えを明確化する、自分の考えと筆者の主張とを比較しながら批判精神をもって本文を読むという本時の目標を理解する。 ②サイボーグとクローン人間の定義を理解する。	・本時の授業展開と学習目標を明らかにし、授業に臨む心の準備ができるようにする。 ・先入観にとらわれず自由に考え意見交換するために、本文は意見交換の後に読むことを徹底する。 ・定義は、生徒が話し合いやすいように、具体的にイメージできるようなものとする。
展開 40分	□4～5人グループで意見交換する。（全体での発表は時間的な制約もあって行わないため、少し多めの人数で意見交換を実施する。） □全文の音読をする。 □自分の考えと筆者の主張とを比較する。 □発表する。	**③サイボーグとクローン人間それぞれの是非について、まず自分の意見をノートに書き、その後意見交換する。** ④段落ごとに区切って、3人の生徒が音読する。 ⑤筆者の主張のうち、自分の意見と違う点をノートに書き出す。 **⑥筆者の主張と自分の考えを比較して感じたことをノートにまとめる。** ⑦上記⑤・⑥について発表する。 **⑧発表された意見を聞き、筆者の主張についての理解を深める。**	・感情的な意見に終始せず、できるだけ論理的な主張をするように助言する。 **目標アに対する評価規準と評価方法** **〔規準〕**自分の考えを整理し、筋道立てて話そうとしている。 **〔方法〕**観察（行動）、点検（ノートの記述） **〔状況Cの生徒への手だて〕** ・小説・漫画・映画なども含め、もっている知識を総動員し、できるだけ具体的に考えるよう助言する。 ・精読する前の段階なので、この時点では、本文の内容の読み取りについて、細かな点での誤りにはこだわらないこととする。 **目標イに対する評価規準と評価方法** **〔規準〕**自分の意見と筆者の主張の比較により、筆者の主張に対する理解が深まっている。 **〔方法〕**観察（机間指導、発表）、点検（ノートの記述） **〔状況Cの生徒への手だて〕** ・まず、本文の中でなるほどと感心した箇所に線を引いたり抜き出したりすることから始めるように助言する。
まとめ 5分	□本時の学習のまとめと次時の確認をする。	⑨筆者の主張が、独創的であり、また論理的であることを確認する。 ⑩次時から本文を精読していくこと、また、精読が終わった後に、筆者の主張に対する意見文を各自が書くことを確認する。	・本文を無批判に受動的に読むのでなく、自分の考えと比較しながら能動的な姿勢で読むことができたなら、本時の目標はおおむね達成できたと考える。